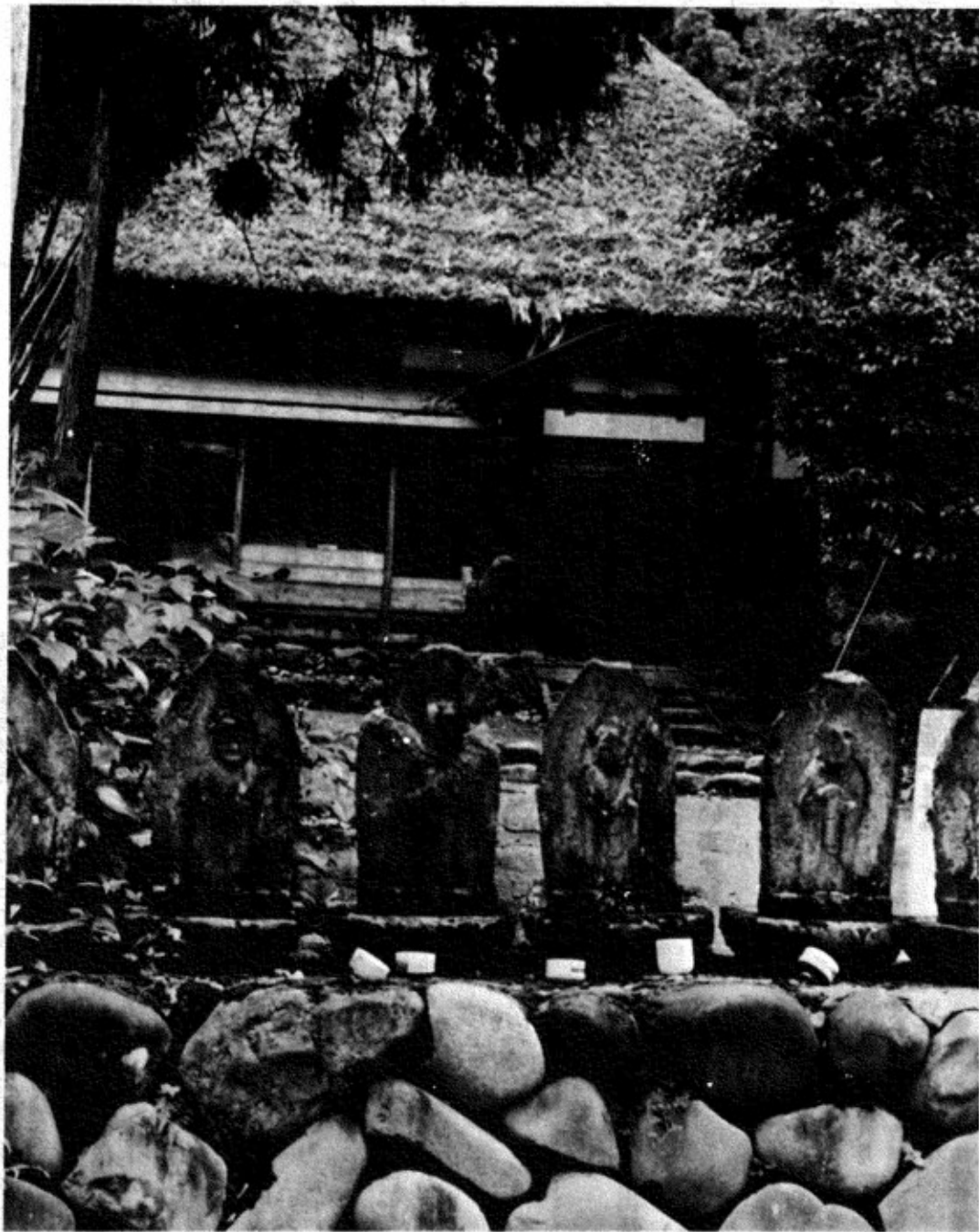


町の人口  
世帯数 1,606人  
人口 6,962  
男 3,407  
女 3,555

# 広報かわぐち

No. 24

発行人 川口町公民館長 保科 清  
編集人 桜井 兵治



△西倉の地藏堂、越路三十三番の十九番、各地からお参りにくるとのこと▽

## 体育協会の動き

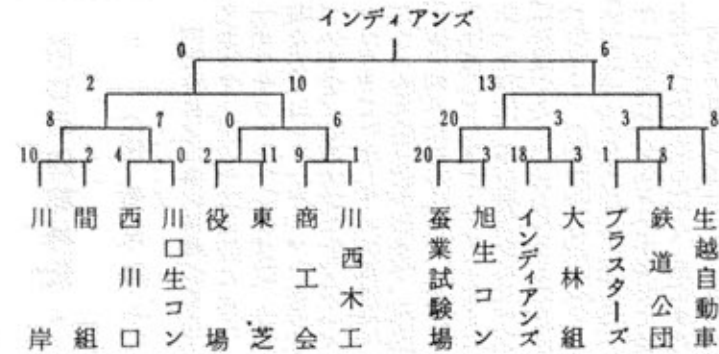
☑ おはよう  
走る会

毎週日曜日、川口小学校グラウンドから、おはよう走る会を行っています。どなたも参加でき、すので気軽にご参加ください。走る記録カードをお渡ししています。ぜひ健康のためにも参加して一緒に走りませんか……。

## 町制施行記念 野球大会

### インディアンズ優勝

例年になく多くのチームが参加して行なわれた大会となり、熱戦にわたり、インディアンズが優勝しました。また結成されたばかりのチーム伝統ある古参のチームなど様々ですが、各々、プレーすることを楽しんでいました。運営にあたった野球協会の審判団、公民館も参加チームの増加に嬉しい悲鳴といったところ。練習場の問題で仲々、思うように練習できないのが各チームの悩みですが、互いに譲り合い、キチンとした利用で互いに技術を高めたいものです。



## 川口町卓球協会強化

### 合宿行なわれる

川口町卓球協会は、参加人員は合計二十二人で、去る六月二十八日・二十九日にかけて、第四回強化合宿を行いました。まず、協会長石坂久平のあいさつで始まり、続いて教育長吉田島正から、「スポーツマン精神とは何か？」と語り、教育長 自らの経験談の話と共に、励みの言葉を頂き、開会式を終りました。

尚、協会員を募集しています。卓球をやりたい人は、年令にこだわらず、じょうずへたに関係なしに、是非共、申し込みください。会費は年間 一般人千円、高校生は 五百円です。申込み先は、町教育委員会、桜井珍子あてに、連絡をしてください。



## 広報メモ

- ▽原新田の山田マズさんから貴重なお手紙をいただきました。渡し舟にまつわる悲喜こももな思い出が綴られています。大変ありがたうございました。
- ▽川口の四郎神様……の一文は元蚕業試験場長の新宮先生から寄せられたものです。おかいこさま、と郷土川口との深いつながりを考えさせられます。
- ▽今月号は減額しましたが、毎月継続するために止むを得ぬ事情をお察しくください。
- ▽表紙用の写真に、川口町内にあるもので、ぜひ知って欲しいもの、風景などありましたら公民館までお寄せください。
- ▽広報かわぐちにご意見・ご希望をお寄せください。町政と町民のかけ橋である広報かわぐち。みなさんの身近かなニュース、できごと、何でも結構です。福祉センター内公民館までお送りください。



7月21日から  
8月20日まで

夏の交通事故防止運動

○夏期における安全運転の確保  
○夏休み中のこどもの交通事故防止

《運動の重点》

「農民の船」団員に  
小林 孝君が決定

信越・東北の各県主催の海外派遣の青年の船に木沢青年会長の小林孝君(24才)(小林吉氏長男)が団員として参加することが決まりました。研修先は中国の上海・天津・北京で八月十日出発して十六日間、中国の青年との友好を深めて中国農業を視察することが目的です。なおこの事業は町役場・農協などが協力し青年を派遣するものです。

なお、報告会は九月五日青年団主催で行なわれる予定です。ご期待ください。

町PTA研究大会  
七月二十七日

町連合PTA研究大会(事務局川口小学校)が七月二十七日、川口小学校を会場に行なわれます。主テーマは「現代の諸問題に對処するPTAの活動」と題し、五つの分科会で討議が行なわれます。子どもたちの地域参加をどのようにするか……など様々な問題を抱えている現状にどのように連携し解決してゆくか、みんな考えて

おしらせ

町PTA研究大会  
七月二十七日

行方不明の人を捜す  
相談所開設のお知らせ

県警では八月一日から一カ月間「行方不明の人を捜す運動を進めることになり、次の日程により相談所を開設いたします。家族や親せきの方で、家出したままより早く解決してゆくか、みんな考えて

ぜひ相談にのってください。なおおいての際は、なるべく本人の写真や、家出当時の状況のわかる資料を持参ください。

八月一日(八月三日)平日午前九時～午後四時、土曜日午前九時～正午

県警本部鑑識課  
新潟市寄居町新潟中央署四階  
(電話 二八一二二二)

長岡警察署  
長岡市西千手二丁目  
(電話 三二二二二二)

コーラスグループを  
つくりましょう

オンチ大歓迎、ガラガラ声も  
キーキー声も大丈夫、だれでも歌える、だれでも楽しめるコーラスクラブを作りましょう。

△練習日 八月五日午後七時  
△会場 福祉センター  
△連絡は町公民館 桜井まで  
(二二一九・三二一〇)

八月十日は町民体育祭

年々、盛んになるスポーツ、健康を願う人々のスポーツ、今年も町民体育祭が間近です。町民体育祭も今年で十七回目、現在の川口中学校グラウンドで行なわれる最後の体育祭になりそうです。

今年もすでに体育祭の準備がすすんでいます。子どもたちからおとしよりの方々まで、楽しくスポーツのできる種目を準備してあります。各地区館とも張り切っていますので多数ご参加ください。

家庭教育通信を  
利用していますか

県教育委員会は「子育の第一子をおもちの方に対して通信を出しています。子どものしつけ、健康についてお役にたつと思えますので大いに利用し、ご意見をいただきたいと思えます。

公民館では七月十三日午後一時三十分より福祉センターにおいてお話し合いを行いました。今後、気軽に子どもたちのことを語り合ってください。

東北電力川口出張所の  
廃止について

東北電力川口出張所を来る七月三十一日をもって廃止し、従来出張所区域でありました川口町は来る八月一日から小千谷営業所の直轄区域に変更いたします。

電気のご用・故障修理などのお申込みは小千谷営業所(〇二五八八一―四三六五番)へご用命下さい。

夏休み中の生活指導  
について

子どもたちにとっては、楽しい夏休みが間近にせまってきましたが、現代社会には危険がいっぱい待ちかまえています。楽しいなかにもさまざまな態度で事故や非行のないように過ごしてもらいたいと思っております。

休業中の子どもの生活、しつけ、事故防止等の指導は家庭の責任において行なわれるべきものですが日本の社会では、学校まかせの家庭が多いようです。学校は一般的基本的な生活のルールを指導し、そのうえ地域社会の協力ではじめ立て立派な生活指導ができることを確信しております。

それではどのような指導をすればよいか要約を列記いたします。

第一は生命の安全についてである。交通事故をおこさないように正しい歩行、交通のきまりを守る、自転車の整備と正しい乗り方、道路上での遊びの注意。水難防止では川での遊び、魚つり、水泳等の注意である。

第二には不良化の防止である。子どもに対しての無関心、放任が非行化、不良化に走るの子どもと親との対話が大切であり地域の人々の協力と早期発見に務めなくてはならない。

第三には余暇の善用である。計画を立てて学習、運動、読書にはけみ夏休みでなければできない経験を積み重ねたいものである。

川口の四郎神社

川岸 新宮 璋一

四郎神様とは蚕の神様のことであります。川口では蚕のことを「ボコサマ」といいますが、山梨県などでは「オシラサマ」とよんでいます。このオシラサマが「オシロウガミ」として「四郎神様」になったものと思われれます。不眠不休で飼った蚕が病気で一夜の内に全滅してしまうことも少なくない時代、蚕の豊作を祈って四郎神様があらため祀られたものと思われれます。蚕神様には三十センチの桑の木に先に男女の顔を描いた一對の神様に布きれを着せて踊らせる東北系のもの、馬にまた

がり桑枝と繭などをもった関東系のものに分けることができます。昔から川口の養蚕技術は東北系でありましたが、四郎神様は関東系であります。

牛ヶ島の万覚院には本県に数少ない四郎神様が、本尊不動明王の脇仏として祀られております。木の影の二三センチほどの立像で右手に糸針、左手に桑枝を持っておられます。全体が黄褐色で唇のあたりは彩色の跡が残っており、頭に冠があつたかと思われる以外完全なお姿の蚕神様であります。

お寺から各戸へ配られたお札は牛ヶ島の万覚院、中山の大広寺の

他に池ヶ原の正教院、川井の愛染様、浦佐の毘沙門様や小出の不動院などから出ていきましたが、最近蚕が病気で全滅ということがなくなつたためか、お札は出されておられないようでもあります。

四郎神様の掛軸を牛ヶ島・武蔵、川口と田舎山で見せてもらいましたが、書は「駒形神社」だけ、絵は稚産霊神、天八千千姫命と衣襲明神の神様に馬鳴菩薩の仏様の他聖徳太子と中国農耕文明の開祖黄帝の元妃西陵氏などの珍らしいものがありました。この中でネズミを防ぐためのネコとクマの神様もありました。

関西・関東や東山など広い地域から伝来しているとは川口が街道筋にあつて広く文化の交流があつた証拠かと思われれます。

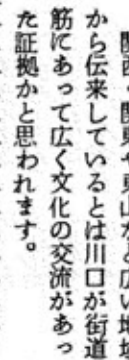
なれた時、よく此の川はたで泳いだ夢を見た。

出家から村に帰って舟を待ちながら西倉を見る時、心がおちつき、ふるさとのきたたけのなつと心のやすらぎを感じた。夜ともなれば村の灯りが川の面に、ゆらゆらゆられて舟こぎ音がギーギーと聞えてくる時、早く家に着きたくて心があせつた。雪のすこく降るある日舟に乗って水面をじっと見て居たら、川の面にふる雪影の水鏡

やまゆふりでも水や増さずそ山本山に発電所が出来て川上の方で水の取り入口が出来た為に川の水が昔より少なくなり、流れがとてゆるやかにになりました。それで雪が沢山降ると雪の島が出来て舟がごけなくなるのでPTAの皆さんが出て舟頭さんの手伝いをしてやっとなんかした事もありました。

時代が進むにつれて渡舟など待ちや居られないと言われ、どん西倉にも自転車・バイク・自動車等がぞくぞくと入りました。あたらしい橋工事が昭和四十六年六月着工。いよいよ今年には完成しました。此の度橋の渡り初めとなり西倉の人々始めみんなの為に、たいへん役立つ事と思ひます。何年か前におとしよりの皆さんが、こんな広い川に橋などとは夢の様な話だ、天のくもをつかむ様な話だと話合つて居るのを聞いた事がありました。

それが此の度実現したので、うれしい事です、大きな橋、近代渡し舟に御苦勞様でした。



渡し舟よさよなら  
原新田 山田 マス

江戸の昔からの伝統だった、この渡し舟に別れをおしんで居る者です。

生れて五十年余り舟を渡り、又見て村に暮して居る者には、さまざまな思い出が沢山ある。幼ない頃買物又輸出の父母が向う岸に見えた時舟着場までむかえに出た小学校の頃大水で舟止の時学校に行く事が出来なかつた。でもそれがとても又嬉しかった。学校帰りに舟の中でマントを敷いて弁当をよく食べた夏の暑い日は家に帰

らに一度川で泳いでから帰った事も幾度か、びしょびしょになつた。かみの毛をみて父母に叱られた。南無弥陀仏を三回となると川の水も清水になると祖母から聞かされた。

その信濃川の水を暑い夏の日に舟に乗るたびに飲んだ。

私が十六才の年の三月ハハキトクの電報を受取つたのは名古屋の紡績工場でした。

早速仕度をして汽車で川口駅下車。雪道を急いできて、渡舟の所で舟頭さんに

おらっかおは、なじょうだろりおははききました。舟頭さんは、ねらっかおはけさ五時死んだてや。

お家さんを迎える時も此の舟で送った。出稼にふるさとを遠くは